

定山溪地区景観まちづくり指針（素案）

平成 29 年 2 月

札幌市

目 次

1. 目的と位置付け	1
(1) 背景と目的	
(2) 策定までの経緯と位置付け	
2. 対象区域（景観まちづくり推進区域）	3
3. 目標・方針	4
(1) 目標	
(2) 方針	
4. 景観形成の考え方・区域の指定等	6
5. 景観形成の基準	12
(1) みどり	
(2) 建築物・工作物	
(3) 駐車場	
(4) 夜間景観	
(5) 広告物等	
6. 届出の手続き	30
(1) 届出対象行為	
(2) 届出が除外となる行為	
(3) その他	
(4) 届出の流れ	
(5) 現に存する建築物等に対する適用の除外	
7. みんなで取り組む景観まちづくり活動	32

1. 目的と位置付け

(1) 背景と目的

札幌都心部から南に約 30km、札幌市南区にある定山溪地区は、支笏洞爺国立公園の区域にも位置する自然豊かな地区であるとともに、かねてから札幌の奥座敷として栄え、平成 28 年（2016 年）には開湯 150 周年を迎えた歴史ある温泉街です。特に、地区内を流れる豊平川を中心として、背景となる山々とともに四季折々の変化を楽しむことができる溪谷は、当地区を象徴する資源であり、その周囲に良質な源泉を楽しむことができるホテルや旅館といった宿泊施設等が軒を連ねることで、独特の景観を形成しています。このような恵まれた自然環境と温泉街が織り成す景観は当地区の大きな魅力のひとつであり、これを生かし、より魅力的な景観を形成することは、温泉観光地としての価値を高める上でも重要です。

平成 27 年（2015 年）3 月に策定した「定山溪観光魅力アップ構想」（以下、「構想」という。）では、目指す将来像の実現に向け、基本方針のひとつとして「温泉街らしさやにぎわいづくり」、また、その方向性として「美しい都市型温泉観光地としての景観形成」などを掲げ、その主な取組として景観の魅力高める指針を策定することを位置付けています。

本指針は、構想を踏まえ、定山溪地区の特性に応じた魅力的な景観の形成を推進するため、地域住民や事業者等と札幌市の協働により策定するものであり、対象区域、目標・方針、基準や活動等を定め、これらに基づいた取組を行うことで、定山溪地区の景観まちづくり^{*}を推進していくことを目的とします。

本指針に示す様々な取組を通して、地区に対する住民の誇りと愛着の醸成や、地区へ訪れてみたいという機運の向上など様々な効果を生み出し、定山溪地区の魅力がより一層高まることを目指します。

※景観まちづくり：この指針では、市民・事業者等が関わりながら、地域の景観のあり方について検討し、地域特性に応じた魅力的な景観の形成に向けて取り組むことをいう。

■定山溪観光魅力アップ構想（抜粋）

目指す将来像	湯めぐり、森めぐり、水めぐり、四季あそびー札幌定山溪
将来像の実現に向けた基本的な考え方	新・奥座敷へ 心安らぐ“温泉”×心躍る“+α”のリゾート空間
【基本方針 1】温泉街らしさやにぎわいづくり 2 美しい都市型温泉観光地としての景観形成 <主な取組> ■良好な街並みやにぎわいを感じる活動などによる景観的な魅力を高める指針の策定 ■景観形成のための取組	

■当地区において景観まちづくりに取り組むことで期待される効果

- 観光地として
 - ・景観の魅力が向上することで、地区へ訪れようという機運が高まります。
 - ・温泉街としての雰囲気醸成や目的地への誘導、期待感の向上などにより、地区の評価が高まることで、来訪者の増加など、経済効果が期待されます。
- 地域として
 - ・指針に位置付けられた活動を継続することで、住環境の向上につながります。
 - ・住環境が向上することで、まちの一体感が生まれます。
 - ・良好な景観が形成されることで、住民のまちに対する誇りや愛着が醸成されます。

定山溪地区景観まちづくり指針の策定

1. 目的と位置付け

(2) 策定までの経緯と位置付け

1) 策定までの経緯

本指針は、以下に示すとおり、定山溪地区の魅力アップに向けた具体的な展開などについて検討を行うために定山溪連合町内会や宿泊施設等の事業者、学識経験者などで構成される「定山溪観光魅力アップ検討会議（以下「検討会議」という。）を開催し意見交換を行うなど、地域住民や事業者等と札幌市が協働で内容を検討し、策定したものです。

○景観まちづくり指針策定までの経緯

平成27年9月～28年8月 検討会議 全9回実施	定山溪が目指す温泉街の景観整備のイメージ、景観まちづくり指針の対象区域、地域で取り組む景観まちづくり、景観まちづくり指針の具体的な内容の検討など
平成28年10月3日～ 10月17日 アンケート	景観上重要な区域として検討していた、国道230号沿線、定山溪中央線沿線等を中心とした区域にお住まいの方々を対象に、「アンケート」を実施
平成28年10月 ヒアリング	景観上重要な区域として検討していた、国道230号沿線、定山溪中央線沿線等の事業者等を対象に、景観まちづくりへの協力の可能性などを把握する「ヒアリング」を実施
平成28年10月21日 第10回検討会議	景観まちづくり指針（素案）の内容確認
平成28年11月17日 第11回検討会議	アンケートやヒアリングの結果を踏まえ、景観まちづくり指針（素案）の内容を検討
平成29年2月3日～ 2月17日(予定) 意見募集	対象区域内の全戸を対象に、景観まちづくり指針（素案）について意見募集
平成29年3月(予定) 第12回検討会議	意見募集の結果を踏まえ、景観まちづくり指針（素案）の内容確認
平成29年3月末(予定)	景観まちづくり指針（案）の内容の確定
平成29年度中(予定)	札幌市景観審議会への意見聴取
平成29年度中(予定)	札幌市景観条例に基づく、景観まちづくり指針として策定

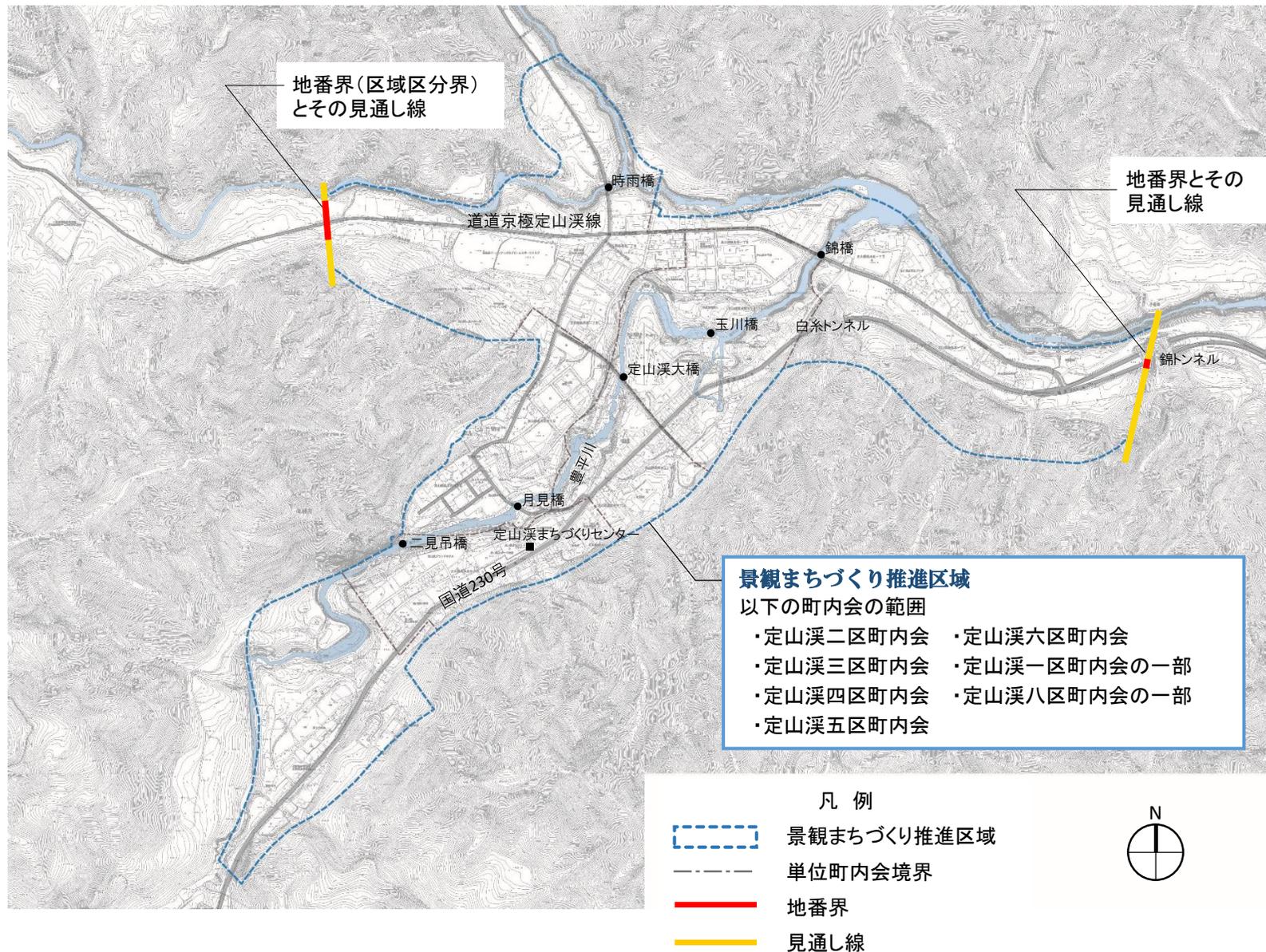
2) 位置付け

本指針は、地域住民等と札幌市がその内容を共有し、これからの定山溪地区におけるまちづくりに生かしていくものであり、札幌市景観計画及び札幌市景観条例に基づく指針として位置付けます。なお、地域における建築動向や景観まちづくりに関する地域住民等の機運の高まりなど、この地域を取り巻く状況の変化に応じて、指針の内容を見直すことを検討します。

2. 対象区域（景観まちづくり推進区域）

この指針の対象区域（景観まちづくり推進区域）は、検討会議等で出された意見等を踏まえ、下図のとおりとします。

■対象区域 （景観まちづくり推進区域）



3. 目標・方針

(1) 目標

四季折々の美しい自然にとけ込む札幌定山溪

～めぐりたくなる湯のまちへ～

定山溪地区は、支笏洞爺国立公園内に位置し、自然豊かな山々に囲まれた美しい渓谷を有する温泉街であり、札幌の奥座敷として栄えてきました。地区内では、四季折々の美しい自然の表情を感じることができるとともに、カヌーやラフティングなど自然を生かしたアクティビティも楽しむことができます。このような自然豊かな温泉街として、定山溪には札幌市民だけでなく国内外より多くの観光客が訪れています。

これらの特徴を生かし、自然と共生した様々な体験が可能な宿泊・滞在型の観光拠点として当地区の魅力により高めるためには、渓谷に代表される豊かな自然環境や温泉、アクティビティといった今ある資源を最大限に活用しつつ、より多くの人々に地区内の魅力を知ってもらえるよう、地域の方々はもとより来訪者等が地区内を周遊したくなるような環境を整えることが重要であり、そのためには、この地区の特徴を生かした魅力的な街並みを形成することが不可欠です。

住む人も訪れる人も、より定山溪地区の魅力を感じる景観形成を目指します。

(2) 方針

方針 1

四季折々に変化する
国立公園の豊かな自然を
大切にする景観まちづくり



方針 2

歩いて楽しい賑わいと
おもてなしを感じる
景観まちづくり



方針 3

渓谷美を守り生かす
景観まちづくり



方針 4

札幌の奥座敷として
栄えてきた湯のまちの
成り立ちを継承する
景観まちづくり



方針1 四季折々に変化する国立公園の豊かな自然を大切にする景観まちづくり

支笏洞爺国立公園内に位置する当地区は、札幌岳や余市岳など標高1,000m級の山々に囲まれており、四季折々の自然の変化や定山溪特有の生物・山野草を間近に楽しむことができます。これらの豊かな自然環境は、当地区の景観を形成する最も重要な要素であるといえます。

当地区のかけがえのない財産であるこの豊かな自然を、守り生かす景観まちづくりを目指します。

方針2 歩いて楽しい賑わいとおもてなしを感じる景観まちづくり

古くから温泉街として栄えてきた当地区において、温泉街をそぞろ歩く人々の姿は、景観上なくてはならない要素であるといえます。特に、定山溪温泉への玄関口となる国道230号や温泉街の中心を通る定山溪中央線などは温泉街の顔となる主要な通りであり、これらの沿道において賑わいやおもてなしを感じる雰囲気醸成することは、そぞろ歩きを楽しむ人々の増加にもつながり、温泉街としての魅力を高める上で重要です。

誰もが歩いて楽しめるよう、賑わいとおもてなしを感じる温泉街らしい景観まちづくりを目指します。

方針3 溪谷美を守り生かす景観まちづくり

当地区の中心を流れる豊平川の溪谷沿いは、山々などの豊かな自然を背景に、その周囲に宿泊施設等が連なることで独特の美しい景観が形成されています。特に、四季折々に変化する溪谷美を堪能することができる豊平川に架かる橋からの眺めは、地域の皆さんも景観上重要であると感じています。

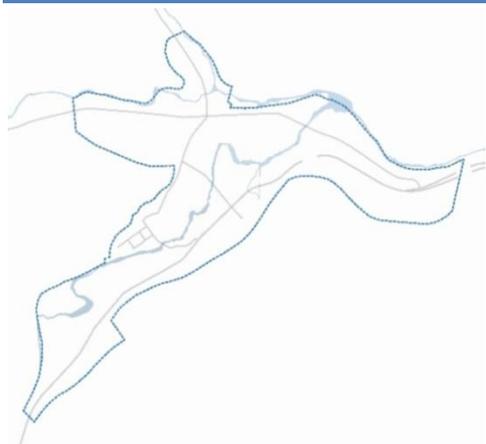
定山溪の象徴である溪谷美をいつまでも守り生かす景観まちづくりを目指します。

方針4 札幌の奥座敷として栄えてきた湯のまちの成り立ちを継承する景観まちづくり

北海道の温泉地として有数の規模を誇る定山溪温泉は、慶応2年(1866年)に開湯し、かつては定山溪鉄道が走るなど札幌の奥座敷として栄え、温泉街の街並みが形成されてきました。また、地区内には明治初期に開通した本願寺道路(現国道230号)や、定山に所縁のある定山寺、定山溪神社といった社寺など、温泉街としての歴史を今なお感じることのできる資源が残されています。このような温泉街としての成り立ちを継承することは、定山溪らしい景観を形成する上で重要です。

かねてから札幌の奥座敷として栄えてきた湯のまちの成り立ちを大切に、継承する景観まちづくりを目指します。

景観まちづくり推進区域



周囲の自然環境との調和を図りながら、温泉地としての良好な景観の形成に向けて、取組を段階的に進めていく区域です。
(定山溪二、三、四、五、六区町内会、及び定山溪一区町内会の一部、定山溪八区町内会の一部)

景観誘導区域



「景観まちづくり推進区域」のうち、定山溪温泉を代表する特徴的な景観を有し、温泉観光地としての魅力的な景観づくりを進める上で地域住民や事業者等が特に重要だと感じている路線や橋からの眺望を設定した区域です。

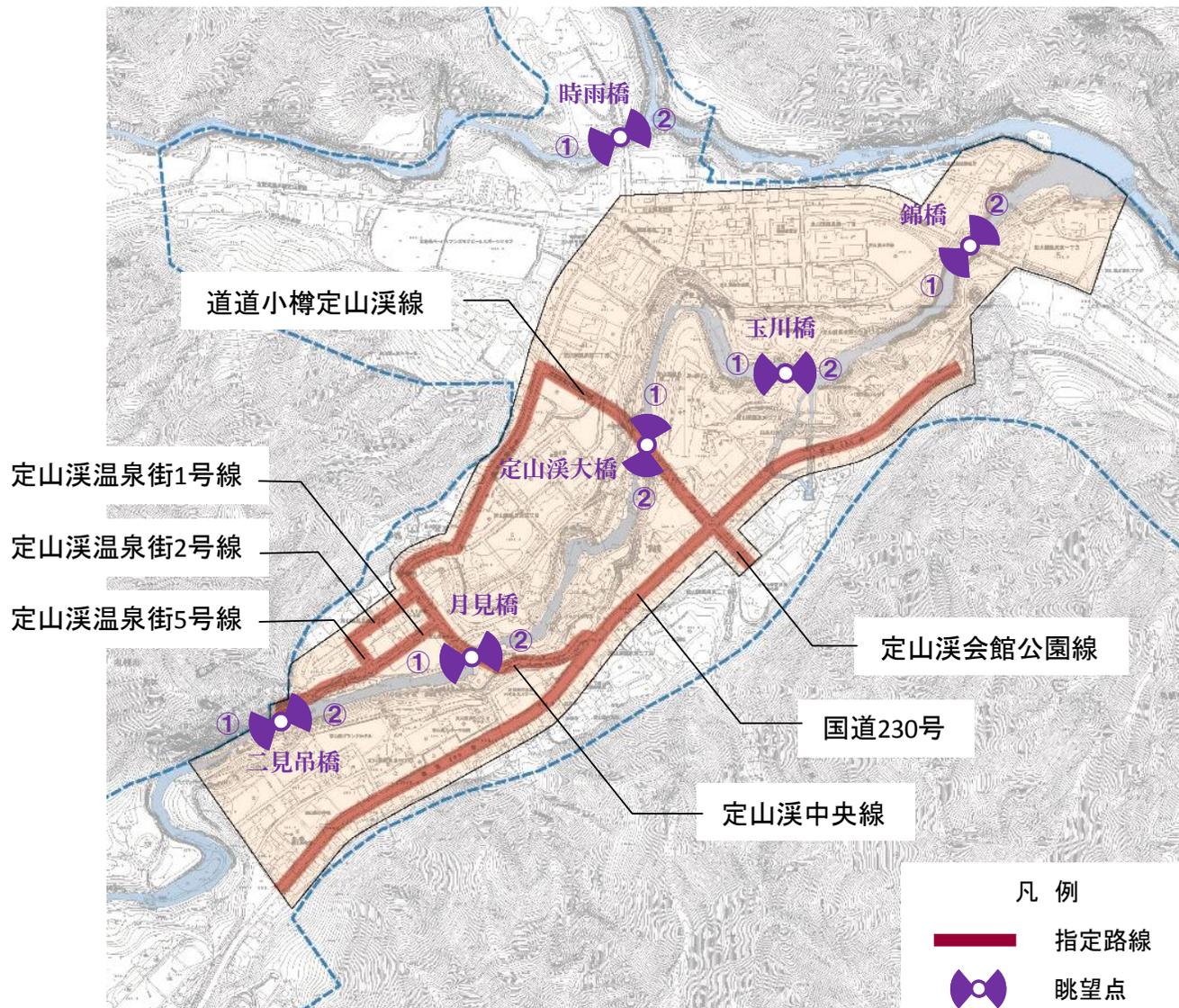
この区域では、届出制度※などと連動し、より積極的に良好な景観形成を進めていきます。

「景観誘導区域」は、国道 230 号に関しては道路中心線から外側に 40m の範囲、その他の主要道路では該当路線の道路中心線から外側に 30m の範囲を境界（一部の路線では道路中央線を境界）、その他地番境界等で囲まれた範囲と対象とします。なお、上記による誘導区域（道路中心線から外側に 30m もしくは 40m）の境界が、推進区域の範囲を超える場合は、推進区域を優先します（国道 230 号の拡幅後も含む）。

届出制度：一定の規模を超える建築物の新築や外壁改修などの行為を行う場合、札幌市へ届出を行い、基準への適合等について協議する制度

■指定路線及び眺望点

上記の景観誘導区域のうち、特に重要となる路線や溪谷沿いの眺めについては、以下のとおり「指定路線」及び「眺望点」として位置付け、魅力的な景観形成を推進します。



指定路線

国道 230 号は、定山溪地区への主要なアクセス路線であり定山溪温泉の玄関口となること、また、定山溪中央線や道道小樽定山溪線、定山溪会館公園線などは、温泉街の中心部を通る主要な道路であり、定山溪温泉の顔となる場所であるとともに、地域の皆さんが景観上特に重要だと感じている路線です。

来訪者を出迎え、そぞろ歩きを楽しんでもらう雰囲気醸成し、温泉地の賑わいやおもてなしの心を感じる景観形成を誘導するため、指定路線として位置付けます。

(国道 230 号、定山溪中央線、道道小樽定山溪線など)

眺望点

豊平川に架かる橋は、溪谷沿いの豊かな自然と宿泊施設などの建築物が織りなす定山溪らしい景観を堪能できる眺望点であり、地域の皆さんが景観上特に重要だと感じています。

来訪者にとって魅力的で、地域の人々にとって誇りに思えるよう、定山溪の特徴である溪谷美を守り生かす景観形成を誘導するため、これらの地点を眺望点として位置付けます。

(二見吊橋、月見橋、定山溪大橋、玉川橋、錦橋、時雨橋)

■眺望点からの眺め (イメージ写真)

二見吊橋①



月見橋①



定山溪大橋①



二見吊橋②



月見橋②



定山溪大橋②



玉川橋①



錦橋①



時雨橋①



玉川橋②



錦橋②



時雨橋②



5. 景観形成の基準

「景観まちづくり推進区域」及び「景観誘導区域」において、景観形成の目標と方針に基づき、以下の項目に関して景観形成の基準を設けています。



■基準の見方

項目等	基準	基準が適用される区域
<p>【基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観まちづくり推進区域と景観誘導区域における基準を示しています。 <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準の内容に沿った具体的な留意点や解説図を記しています。 	<p>建築物の外構</p> <p>○建築物の外構部分は積極的に緑化する。</p> <p>【解説】定山溪の豊かな自然を地区内で共有するため、建築物の外構部分を積極的に緑化しましょう。</p> <p>建築物の外構部分を積極的に緑化している例</p> <p>○温泉街の街並みのイメージを損なわないよう、敷地内の植栽などは適切な維持管理に努める。</p> <p>植栽するだけでなく維持管理がされている花壇の例</p> <p>春先には花の植え替えなどをすると景観が美しく保たれる</p>	<p>景観まちづくり推進区域</p> <p>景観誘導区域</p> <p>【区域の適用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準がどこの区域で適用されるのかを示しています。ただし、宿泊施設等については、「景観まちづくり推進区域」に位置するものでも、『景観誘導区域』の基準に準じるものとします。（※P30 参照） <p>※「景観まちづくり推進区域」において、届出対象行為に該当しない建築物等についても、当該指針の目標・方針を踏まえ、当該基準を尊重するものとします。</p>
<p>【基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観誘導区域における基準を示しています。 	<p>道路沿い</p> <p>○道路に接する敷地部分は、周囲の花やみどりとの連続性を意識し、効果的な植栽を行う。</p> <p>【解説】道路沿いの花やみどりがつながることで、街並みの一体感が生まれるとともに、建築物の人工的な印象を和らげる効果が期待できます。特に、人通りの多い道路沿いでは、周囲の植樹帯や隣地に植えられている花や樹木等を意識して同種のものを選定するなど、効果的な植栽を行いましょう。また、植木鉢などを設置する場合、その色彩や素材は、温泉街のイメージを損なわないよう、周囲の街並みとの調和に配慮したものとしましょう。</p> <p>周囲のみどりと連続性を確保</p> <p>効果的な花やみどりによる演出</p> <p>※道路から見える建築物は、人工的な印象を和らげて自然と調和させるため、道路沿いの壁面の前面を積極的に植栽し修景する。</p>	
<p>【項目等】</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな項目に関連する基準なのかを記しています。 		

5. 景観形成の基準

(1) みどり

国立公園内にある定山溪の豊かな自然を温泉街でも感じられるよう、積極的にみどりの保全と創出を図ることで、自然環境と調和のとれた景観形成を目指します。

項目等	基準	基準が適用される区域
建築物の外構	<p>○建築物の外構部分は積極的に緑化する。</p> <p>【解説】定山溪の豊かな自然を地区内で共有するため、建築物の外構部分を積極的に緑化しましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>建築物の外構部分を積極的に緑化している例</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p>○温泉街の街並みのイメージを損なわないよう、敷地内の植栽などは適切な維持管理に努める。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>植栽するだけでなく維持管理がされている花壇の例</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>春先には花の植え替えなどをすると景観が美しく保たれる</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 景観まちづくり推進区域 </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 景観誘導区域 </div> </div>

○道路に接する敷地部分は、周囲の花やみどりの連続性を意識し、効果的な植栽を行う。

【解説】道路沿いの花やみどりがつながることで、街並みの一体感が生まれるとともに、建築物の人工的な印象を和らげる効果が期待できます。

特に、人通りの多い道路沿いでは、周囲の植樹樹や隣地に植えられている花や樹木等を意識して同種のものを選定するなど、効果的な植栽を行いましょう。

また、植木鉢などを設置する場合、その色彩や素材は、温泉街のイメージを損なわないよう、周囲の街並みとの調和に配慮したものとしまししょう。

周囲のみどりととの連続性を確保

効果的な花やみどりによる演出



※道路から見える建築物は、人工的な印象を和らげて自然と調和させるため、道路沿いの壁面の前面を積極的に植栽し修景する。

○指定路線に接する敷地部分に植栽する際は、定山溪の在来種*を積極的に採り入れる。

【解説】定山溪本来の豊かな自然の特長をより身近に感じてもらえるよう、指定路線沿いに植栽する際は、定山溪の在来種（ヤマモミジ、ハウチワカエデ、アカエゾマツ、ムラサキヤシオ、ヤマツツジ、エゾヤマザクラなど）をできる限り選定しまししょう。



ヤマモミジ



ハウチワカエデ

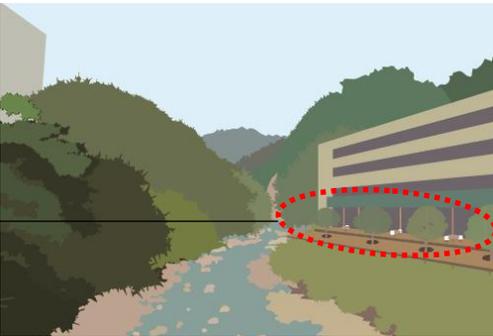


ヤマツツジ



ムラサキヤシオ

※在来種：昔からその土地に自生する種。

<p>建築物の 出入口周辺 など</p>	<p>○建築物の主要な出入口周辺などは、積極的に花やみどりによる演出を行う。</p> <p>【解説】多くの人々が集まったり、人目につきやすい場所は、地区のイメージを印象付ける上で重要となります。そのため、樹木を植えることや植木鉢などを設置することなどによる演出は、おもてなしや歓迎の雰囲気醸成することにつながります。また、特にホテルや店舗などでは、そぞろ歩きを楽しむ人々を引き込む効果も期待できます。主要な出入口周辺などを花やみどりにより演出することで、温泉街の街並みの魅力を向上させましょう。</p> <p>また、建築物の出入口へのアプローチなどに植栽を行う際は、定山溪の四季折々の表情を感じられるよう、季節に応じた花や紅葉する樹種などを選定し、季節感を演出しましょう。</p>  <p>建築物の出入口へのアプローチを緑化などで演出している例</p>
<p>溪谷沿い</p>	<p>○溪谷に面した敷地では、周囲のみどりの連続性を意識して緑化及び既存のみどりの保全を行うとともに、対岸や眺望点からの見え方に配慮し、溪谷を魅力的に演出するような工夫を行う。</p> <p>【解説】溪谷沿いに宿泊施設等が立地する中で豊かなみどりが連続していることがこの地区の景観を特徴付けています。このみどりの連続性を保ちつつ、対岸や橋からの眺望を意識し、四季を感じる樹種を選定したり、建築物との調和に配慮した植栽計画とするなど、魅力的な演出を行いましょ。</p>  <p>溪谷沿いに植栽するなど周囲のみどりの連続性を意識</p>